



未来のために、いま選ぼう。



エコアクション21
認証番号0004492

環境経営活動レポート



活動期間

2023年10月～2024年9月

(第52期)

発行日：2025年1月29日

VER.1

NB 日米電子株式会社

目 次

1. ご挨拶	(P1)
2. 事業内容	(P2)
3. 環境経営方針	(P3)
4. 実施体制	(P4)
5. 環境経営目標	(P5)
6. 年間環境活動計画及び取り組み結果とその評価	(P6)
7. 環境経営目標の実績とその評価	(P7)
8. 次年度環境経営目標	(P8)
9. 次年度環境経営活動計画	(P9)
10. 環境関連法規等の遵守状況と違反、訴訟等の有無	(P10)
11. 代表者による全体評価と見直し	(P11)
12. 環境経営計画に基づき実施した取組内容(その他)	(P12-1~11)

年商100億企業を目指して



代表取締役社長
湯浅 米男

当社は昭和40(1965)年、電子通信機器の取扱事業を主として九州で創業をし、昭和48(1973)年10月1日に本社を福岡市に置き日米電子株式会社として発足いたしました。

創業当時から急速に発達するIT産業に追随して行くために、事業環境の変化に俊敏に対応できる企業体質が不可欠である事を考慮し「誰よりもどこよりも早く新しい事にチャレンジする」企業風土を醸成してまいりました。

また、お客様と社会のニーズに貢献できる会社を目指すべく、皆様に愛されるモラルと高いモチベーション維持のために社員の物心両面の幸福を追求する事を理念として、技術力と創造力で人々の生活文化の向上を目指し、お客様の安全と安心かつ、効率化によるメリットの追求を目指し躍進してまいりました。

今後もすべての業種において市場の変化を直視し将来の変貌を予測せねばならず、前向きな思考で変化に対応すべく、ハード・ソフト面においてはお客様への絶大なる信頼をベースに信用される製品・技術を確立すると共に、高い技術力と誠実さを伴った施工業務など積極的に取組んでまいります。

当社は業界に先駆け総合ソリューション事業を緻密に俊敏に実行し、先進的な技術力、強い経営体質を持った企業として、さらにお客様の視点に立って満足いただける商品やサービスの提供をしていきたい所存です。

最後に、今後とも関係各位のご理解と一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

2. 事業内容

- **経営理念**
 私たちは地球環境・生活環境に配慮し、技術力と創造力で
 地域社会発展に貢献します

- **代表者名**
 日米電子株式会社
 代表取締役社長 湯浅 米男



- **本社所在地**
 福岡市中央区大宮1丁目3番10号

- **担当連絡先**
 ・環境管理責任者 : 専務取締役 松谷 三男
 ・EA21事務局 : 西之園 哲郎, 島ノ江 泰治
 電話 092-522-3163

- **事業の規模 (全社)** (2023年10月)
 総従業員数 151人 (EA21対象者116名)
 全社売上高 320,807万円

- **エコアクション 21 の認証・登録範囲**
 対象範囲: 全組織
 全活動: ソフト・ハード両面にわたる電子機器の設計・開発・製造及び
 電気通信工事・保守業務・営業・管理業務

No.	事業所名	住所	業務内容
1	本社	福岡市中央区大宮1丁目3番10号	ソフト・ハード両面にわたる電子機器の設計・開発・製造及び電気通信工事・保守業務・営業・管理業務
2	北部営業所	佐賀県鳥栖市藤木町1-6	電気通信工事・保守業務・営業
3	長崎営業所	長崎市古賀町867-5	電気通信工事・保守業務・営業
4	大分営業所	大分市下郡中央3-2-8	電気通信工事・保守業務・営業
5	熊本営業所	熊本市南区平田2-21-1	電気通信工事・保守業務・営業
6	宮崎営業所	宮崎市花ヶ島町小無田670-3	電気通信工事・保守業務・営業
7	鹿児島営業所	鹿児島市田上3-4-25	電気通信工事・保守業務・営業
8	関東	東京都港区芝大門1-4-4-506	営業

3. 環境経営方針

【 環 境 経 営 方 針 】

私たちは、「公共事業関連」「宇宙開発事業関連」「システムソリューション関連」の3つの大きなジャンルをベースに普段の生活のあらゆる情報伝達に携わる仕事をしています。

経営理念である「私たちは地球環境・生活環境に配慮し技術力と創造力で地域社会発展に貢献します」を基に、事業活動を通じ社会・生活環境の保全並びに循環型社会の構築に貢献し、環境経営活動の継続的改善を図ります。

1. 環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして取り組みます。

(1) 二酸化炭素排出量(電気・燃料)の削減



(2) 水使用量の削減



(3) 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進



2. 環境影響を常に認識し、環境汚染の予防を推進します。



3. 環境関連法規則を遵守します。



4. 行政機関・団体などの環境保全施策に協力し、社会貢献活動を推進します。



5. 環境への取り組みを環境経営レポートとしてとりまとめ公表します。



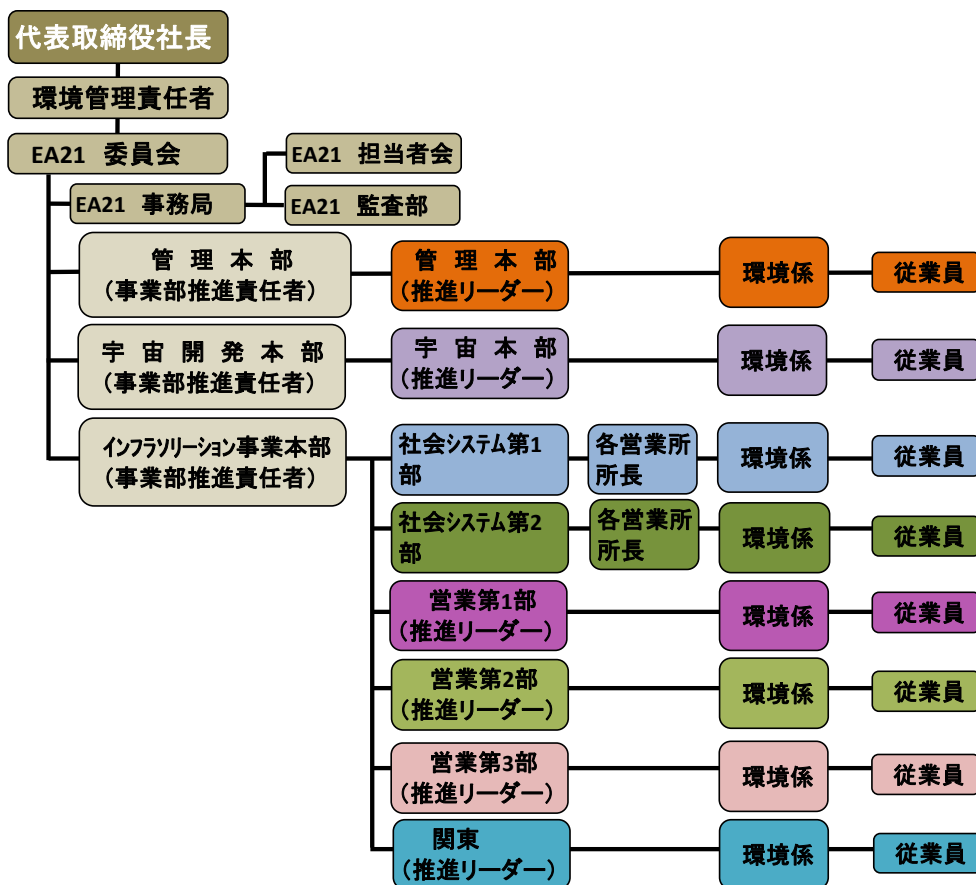
制定日 2009年02月06日

改定日 2020年03月27日

日米電子株式会社

代表取締役社長 湯浅 米男

4. 実施体制



役職名	役割・責任・権限
代表取締役社長	① 環境経営方針の制定、誓約及び全従業員への周知 ② 環境管理責任者の任命 ③ 環境経営システム全体の評価と見直しの実施 ④ 環境経営のための経営資源の確保 ⑤ 経営における課題とチャンスを確認にする。
環境管理責任者	① 各種環境関連文書の記録及び管理 ② 事業部推進責任者の任命 ③ 全社の環境経営目標及び、環境経営活動実施計画の実施状況の評価 ④ 代表者による全体の評価と見直しに必要な資料をまとめ社長へ報告 ⑤ 全社共通の環境関連の教育・訓練の実施 ⑥ 環境活動レポートの作成、公表 ⑦ 環境に関する是正・予防処置の実施状況の確認と評価 ⑧ 社員への教育
EA21委員会	① 環境経営システムの各部・各営業所を運用し、実績を向上させる。結果を報告する。
EA21事務局	① EA21文書及び記録類の作成・維持・管理を行う
EA21監査部	① EA21の内部監査を実施し、適切に改善、維持、管理を行っている
EA21担当者会	① 定期的に会議・見直しを行う
各事業部 推進責任者	① 各施設の推進リーダーの任命 ② 環境活動実施計画の実施状況の報告 ③ 是正・予防処置の実施状況の確認と評価 ④ 教育・訓練・周知の通達
推進リーダー	① 部門状況の報告 ② 教育・訓練・周知の実施 ③ 予防処置・是正指示の対応検討と実施
	所長 営業所所内で推進リーダーの補助業務を行う。 環境係 指定した環境データを収集報告・実施及び周知をする。

5. 環境経営目標

環境目標		サイト区分	単位	50期 2021.10~2022.9 (ベース年度)	51期 2022.10~2023.9	52期 2023.10~2024.9	53期 2024.10~2025.9
1	二酸化炭素排出量の削減 (電気の排出係数は参照※1)		t-CO2	211.39	209.28	207.16	205.05
					(▲1%)	(▲2%)	(▲3%)
	本社系電気	本社	t-CO2	42.89	42.46	42.03	41.60
	営業所系電気	営業所		37.64	37.26	36.89	36.51
	ガソリン	本社		27.94	27.66	27.38	27.10
	建設現場等のガソリン	建設現場等		93.00	92.07	91.14	90.21
	軽油	本社		2.20	2.18	2.16	2.13
建設現場等の軽油	建設現場等	7.72		7.64	7.57	7.49	
1	A. 電気使用量の削減	本社	MWh	167.73	166.05	164.38	162.70
		営業所		89.31	88.42	87.52	86.63
		建設現場等		78.42	77.64	76.85	76.07
	B. ガソリン使用量の削減	本社	kL	52.13	51.61	51.09	50.57
		建設現場等		12.04	11.92	11.80	11.68
		建設現場等		40.09	39.69	39.29	38.89
	C. 軽油使用量の削減	本社	kL	3.84	3.80	3.76	3.72
		建設現場等		0.85	0.84	0.83	0.82
		建設現場等		2.99	2.96	2.93	2.90

2	一般廃棄物の排出削減	本社	kg	4534	4489	4443	4398
					(▲1%)	(▲2%)	(▲3%)
	建設廃棄物のリサイクル率97%の維持	本社	%	97	97	97	97

3	水使用量の削減	本社	m3	735.40	728.05	720.69	713.34
		営業所		542.00	536.58	531.16	525.74
		建設現場等		193.40	191.47	189.53	187.60

4	社会貢献(会社周辺清掃活動)	本社	回	-	営業日雨天以外実施 (回数の把握)	営業日雨天以外実施 (回数の把握)	営業日雨天以外実施 (回数の把握)
5	省エネの機器の導入	本社	-	-	省エネの機器の導入	省エネの機器の導入	省エネの機器の導入

参照※1:調整後排出係数 (t-CO2/kWh) を使用
 -R2年度実績- R4.1.7環境省・経済産業省公表、R4.2.19一部追加・更新

適用サイト	使用会社	係数使用年	係数
本社系	九州電力㈱	2020年	0.480kg-CO2/kWh
営業所系	九州電力㈱	2020年	0.480kg-CO2/kWh

電気事業者別排出係数一覧 令和2年度用 使用 <https://ghg-santeikohyo.env.go.jp/calc>

6. 年間環境活動計画及び取り組み結果とその評価

前年度までの環境活動をレビューを実施し、環境目標を項目別に掲げた環境活動計画を作成し、管理項目と実施事項のスケジュールについて、予定口、実施中△、実施○、結果として未実施×にて進捗管理を行うよう計画した。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		責任者	活動項目	期間	実施状況
1	電気使用量の削減	環境係	1 照明 昼休/不使用時の消灯	通年	○
			2 エアコン使用時の室温管理(不快指数管理)	通年	○
			3 電気温水器電源OFF(クールビス期間中)本社のみ	5月~10月	○
			4 OA機器節電機能の活用	通年	○
			5 スイッチ付OAタップの推進及び継続利用	通年	○
			6 サーキュレーター及び扇風機活用(空気循環)	適宜	○
			7 クールビズ及びウォームビズの実施	定期	○
			8 ハンドドライヤー(コロナ対応完了)	通年	○
2	ガソリン・軽油使用量の削減	環境係	1 省エネ運転の啓蒙強化	通年	○
			2 タイヤ空気圧確認(毎月1回)	通年	○
			3 法定定期点検の実施管理の強化	通年	○
			4 インターネット会議の拡大実施	通年	○
			5 駐車時のアイドリングストップの啓蒙強化	通年	○
			6 入替え時の省エネ車及びハイブリッド車選定の検討	適宜	○

2. 廃棄物の分別排出の徹底

取組目標		責任者	活動項目	期間	実施状況
1	一般廃棄物の排出削減	環境係	1 排出記録簿に従い分別排出する。シュレッダーなど紙リサイクルを積極的に行う	通年	○
		環境係	1 マイ水筒の活用でペットボトル・缶・ビンの排出抑制	通年	○
		全社員	1 両面印刷の推進・縮小機能の有効活用強化	通年	○
			2 使用済み用紙の裏紙利用拡大及びリサイクル化	通年	○
2	建設廃棄物のリサイクル率の維持	環境係	1 分別の徹底	通年	○

3. 水使用量の削減

取組目標		責任者	活動項目	期間	実施状況
1	節水活動と節水器具の活用	環境係	1 節水啓蒙活動(ステッカーの掲示、呼びかけ)	通年	○
			2 節水器具の活用推進	通年	○
			3 手洗いを消毒液に変え節水(コロナ予防対応期間)	通年	○

4. 社会貢献

取組目標		責任者	活動項目	期間	実施状況
1	環境美化活動	全社員	1 社屋周辺の清掃活動	通年	○

5. 省エネの機器の導入

取組目標		責任者	活動項目	期間	実施状況
1	リース車両の入替	全社員	1 ハイブリットカーなどの燃費の良い車両への切替を行う	適宜	○
2	PCリース入替	全部門	2 低消費電力型への切替(SSD仕様)	適宜	○

6. 環境経営教育

取組目標		責任者	活動項目	期間	実施状況
1	環境経営教育	各部環境係	1 WEB使用の環境経営教育実施(全社員受講)	年1回	○

7. 内部監査

取組目標		責任者	活動項目	期間	実施状況
1	環境経営内部監査	内部監査員	1 各サイトの内部監査(全サイト実施)	年2回	○

7. 環境経営目標の実績とその評価

環境目標		サイト区分	単位等	①目標値 (⑤基準年比較)	②実績値	③目標比増減	④削減%	評価
二酸化炭素排出量の削減 (電気の排出係数は参照※1)			t-CO2	207.16 (▲2%)	182.68	▲ 24.48	▲ 11.82	◎
	本社系電気	本社	t-CO2	42.03	36.59	▲ 5.44	▲ 12.94	◎
	営業所系電気	営業所		36.89	36.86	▲ 0.03	▲ 0.08	○
	ガソリン	本社		27.38	17.15	▲ 10.23	▲ 37.36	◎
	建設現場等のガソリン	建設現場等		91.14	82.00	▲ 9.14	▲ 10.03	◎
	軽油	本社		2.16	2.05	▲ 0.11	▲ 5.09	◎
	建設現場等の軽油	建設現場等		7.57	8.03	0.46	6.08	×
A. 電気使用量の削減	本社	MWh		164.38 (▲2%)	153.03	▲ 11.35	▲ 6.90	◎
	本社		87.52	76.24	▲ 11.28	▲ 12.89	◎	
	営業所		76.85	76.79	▲ 0.06	▲ 0.08	○	
B. ガソリン使用量の削減	本社	kL	51.09 (▲2%)	42.75	▲ 8.34	▲ 16.32	◎	
	本社		11.80	7.40	▲ 4.40	▲ 37.29	◎	
	建設現場等		39.29	35.35	▲ 3.94	▲ 10.03	◎	
C. 軽油使用量の削減	本社	kL	3.76 (▲2%)	3.92	0.16	4.26	△	
	本社		0.83	0.80	▲ 0.03	▲ 3.61	○	
	建設現場等		2.93	3.12	0.19	6.48	×	

2	一般廃棄物の排出削減	本社	kg	4443	4961.35	518.35	11.67	×
	建設廃棄物のリサイクル率 100%の維持	本社	%	97	100	▲ 3		○

3	水使用量の削減	本社	m3	720.69 (▲2%)	621.34	▲ 99.35	▲ 13.79	◎
		本社		531.16	437.00	▲ 94.16	▲ 17.73	◎
		営業所		189.53	184.34	▲ 5.19	▲ 2.74	○

4	社会貢献(会社周辺清掃活動)	本社	回	営業日雨天以外実施 (回数の把握)	全社合計 868回	-	-	○
5	省エネの機器の導入	本社	-	省エネの機器の導入	車更新 2台	-	-	○

- (凡例) 評価欄のマーク
◎ 十分に達成 削減が2%超
○ 概ね目標値 削減が0から2%
△ 未達成 増加が0から5%
× 大幅に未達成 増加が5%超
- ③ 目標比増減 = ①目標値 - ②実績値
④ 削減% = (②実績値 / ①目標値) × 100 - 100
⑤ 基準年比較 = (目標値 / ベース年度) × 100 - 100
- ※1 一般廃棄物総排出量とは別に、独自にシュレッダー量のリサイクルを測定し改善につなげる(環境への負荷の自己チェックにはない項目)

参照※1: 調整後排出係数 (t-CO2/kWh) を使用
-R2年度実績 - R4.1.7環境省・経済産業省公表、R4.2.19一部追加・更新

適用サイト	使用会社	係数使用年	係数
本社系	九州電力㈱	2020年	0.480kg-CO2/kWh
営業所系	九州電力㈱	2020年	0.480kg-CO2/kWh

電気事業者別排出係数一覧 令和2年度用 使用 <https://ghg-santeikohyo.env.go.jp/calc>

産業廃棄物の分別排出の徹底については、受注案件に左右されるため目標値は設定しないが参考値として集計は継続する。

8.次年度環境経営目標

環境目標		サイト区分	単位	50期	51期	52期	53期			
				2021.10～2022.9 (ベース年度)	2022.10～2023.9	2023.10～2024.9	2024.10～2025.9			
二酸化炭素排出量の削減 (電気の排出係数は参照※1)	t-CO2			211.39	209.28	207.16	205.05			
					(▲1%)	(▲2%)	(▲3%)			
				t-CO2	本社	42.89	42.46	42.03	41.60	
						営業所	37.64	37.26	36.89	36.51
							ガソリン	27.94	27.66	27.38
						建設現場等	93.00	92.07	91.14	90.21
							軽油	2.20	2.18	2.16
建設現場等の軽油	7.72	7.64	7.57			7.49				
1	A. 電気使用量の削減	MWh	本社	167.73	166.05	164.38	162.70			
					(▲1%)	(▲2%)	(▲3%)			
				営業所	89.31	88.42	87.52	86.63		
	B. ガソリン使用量の削減	kL	本社	78.42	77.64	76.85	76.07			
				建設現場等	52.13	51.61	51.09	50.57		
					12.04	11.92	11.80	11.68		
	C. 軽油使用量の削減	kL	本社	40.09	39.69	39.29	38.89			
				建設現場等	3.84	3.80	3.76	3.72		
					0.85	0.84	0.83	0.82		
				2.99	2.96	2.93	2.90			

2	一般廃棄物の排出削減	kg	4534	4489	4443	4398
				(▲1%)	(▲2%)	(▲3%)
	建設廃棄物のリサイクル率97%の維持	%	97	97	97	97

3	水使用量の削減	m3	735.40	728.05	720.69	713.34
				(▲1%)	(▲2%)	(▲3%)
			本社	542.00	536.58	531.16
	営業所	193.40	191.47	189.53	187.60	

4	社会貢献(会社周辺清掃活動)	回	-	営業日雨天以外実施 (回数の把握)	営業日雨天以外実施 (回数の把握)	営業日雨天以外実施 (回数の把握)
5	省エネの機器の導入	-	-	省エネの機器の導入	省エネの機器の導入	省エネの機器の導入

参照※1:調整後排出係数 (t-CO2/kWh) を使用
 -R2年度実績- R4.1.7環境省・経済産業省公表、R4.2.19一部追加・更新

適用サイト	使用会社	係数使用年	係数
本社系	九州電力㈱	2020年	0.480kg-CO2/kWh
営業所系	九州電力㈱	2020年	0.480kg-CO2/kWh

電気事業者別排出係数一覧 令和2年度用 使用 <https://ghg-santeikohyo.env.go.jp/calc>

9. 次年度環境経営活動計画

環境目標		活動項目	
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	1	照明 昼休／不使用時の消灯
		2	エアコン使用時の室温管理(不快指数管理)
		3	電気温水器電源OFF(クールビス期間中)本社のみ
		4	OA機器節電機能の活用
		5	スイッチ付OAタップの推進及び継続利用
		6	サーキュレーター及び扇風機活用(空気循環)
		7	クールビズ及びウォームビズの実施
		8	ハンドドライヤーをティッシュに置き換え(コロナ予防対応期間)
	ガソリン・軽油使用量の削減	1	省エネ運転の啓蒙強化
		2	タイヤ空気圧確認(毎月1回)
		3	法定定期点検の実施管理の強化
		4	インターネット会議の拡大実施
		5	駐車時のアイドリングストップの啓蒙強化
		6	入替え時の省エネ車及びハイブリッド車選定の検討
廃棄物の分別排出の徹底	一般廃棄物の排出量3%削減	1	排出記録簿に従い分別排出する,シュレッダーなど紙リサイクルを積極的に行う
		2	マイ水筒の活用でペットボトル・缶・ビンの排出抑制
		3	両面印刷の推進・縮小機能の有効活用強化
		4	使用済み用紙の裏紙利用拡大及びリサイクル化
	建設廃棄物のリサイクル率97%の維持	5	分別の徹底
水使用量の削減	節水活動と節水器具の活用	1	節水啓蒙活動(ステッカーの掲示、呼びかけ)
		2	節水器具の活用推進
		3	手洗いを消毒液に変え節水(コロナ予防対応期間)
省エネの機器の導入	省エネの機器の導入	1	ハイブリットカーなどの燃費の良い車両への切替を行う
		2	低消費電力型への切替(SSDタイプパソコンなど)
社会貢献	環境美化活動	1	社屋周辺の清掃活動
環境教育	環境経営教育	1	WEB使用の環境経営教育実施(全社員受講)
内部監査	環境経営内部監査	1	各サイトの内部監査(全サイト実施)

10. 環境関連法規等の遵守状況と違反、訴訟等の有無

- ・当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、過去3年間違反はありませんでした。また、関係当局より違反等の指摘はありません。

環境関連法規制等	対応状況
廃棄物処理法	廃棄の抑制を実施しており、産業廃棄物に関しても適切な管理を行っております。
家電リサイクル法	廃棄時に適切な管理や処理を行っております。なお、今期家電廃棄はありませんでした。
フロン排出抑制法	本社・営業所において、定期的な機器点検を実施し、記録や管理を実施しております。
自動車リサイクル法	当社所有の廃棄自動車はありませんでした。自動車の所有者の責務、使用済自動車の引渡義務、再資源化預託金等の預託義務、それぞれ適切な管理対応を実施しています。
苦情など	ありませんでした

11. 代表者による全体評価と見直し

社員の地道な改善の積み重ねにより、目標に対して概ね計画通り実施され各削減効果が出てきている。

Web会議用のアカウントを増強し、小さな会議もネット会議で実施し、それぞれの移動に伴う燃料やCO2排出を削減できている。

社用パソコンを全社的に省電力化に更新することで、電力削減の大幅な改善につながっている。

来期は社会的な環境経営問題を含め、身近なところで生じている問題、大きな事柄ではなく小さな問題から予想される今と将来を数字に置き直して検討するというような予知する習性も社員全体持ち合わせて頂きたいのです。

幹部も経営陣も勿論疑問を座視しない、提言していく、繰り返し問題を検討していく事が大切です。

また、自分自身のこととして自分の職場に関わり有りとの認識をする。そして皆が幸せになることを願望にしてチャレンジしていきましょう。

今後も当社は事業活動を通じ社会・生活環境の保全並びに循環型社会の構築に貢献し、環境経営活動の継続的改善を図ります。

代表取締役社長
湯浅 米男

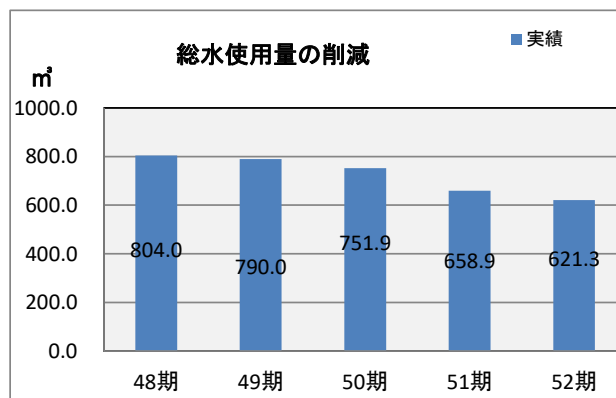
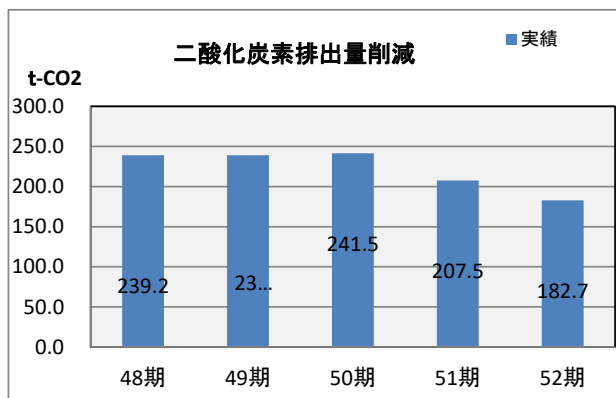
(参考)5年間の各データの推移

①二酸化炭素排出量の削減

	48期 2019.10~ 2020.9	49期 2020.10~ 2021.9	50期 2021.10~ 2022.9	51期 2022.10~ 2023.9	52期 2023.10~ 2024.9
実績	239.2	239.1	241.5	207.5	182.7

②総水使用量の削減

	48期 2019.10~ 2020.9	49期 2020.10~ 2021.9	50期 2021.10~ 2022.9	51期 2022.10~ 2023.9	52期 2023.10~ 2024.9
実績	804.0	790.0	751.9	658.9	621.3



12.環境経営計画に基づき実施した取組内容(その他)

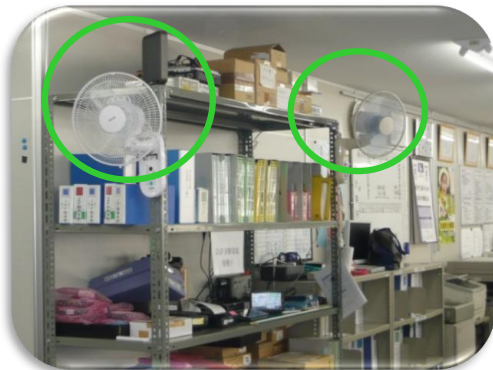
1. 二酸化炭素排出量の削減

- 本社や営業所などで蛍光灯をLED照明へ変更しました。



- 扇風機活用(空気循環)

冬・夏共に体感的効果が良いです。



- ドア向けのサーキュレータ

冬にドアの開け締めで冷たい空気が入り込まないようにドア側に送風しています。



- 電気温水器電源OFF

(クールビズ期間中) 本社のみ



- ウォームビズ・クールビズの周知

(ポスターを出入りに掲示)



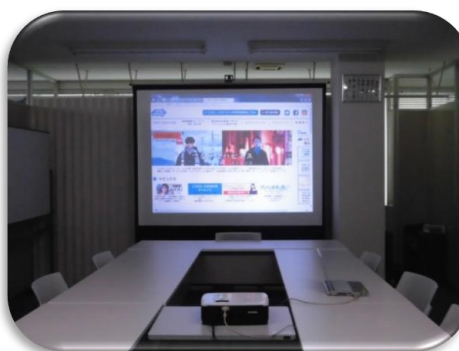
- OA機器節電機能の活用

自動で低電力モードになる機器を選定



- プロジェクターの活用

移動式プロジェクターを会議で使用しペーパーレス化をしています。(4台)



2. 一般廃棄物の分別排出の徹底、可燃物内の紙リサイクル

- シュレッダーの分別
シュレッダーは、透明な袋に入れ別梱包してます



- 飲み物容器の分別
ペットボトルなどを再利用のため分別します。



- リサイクル計量計



- リサイクル紙 種類分別



3. 水使用量の削減

- 節水協力

節水の呼びかけステッカーを蛇口近くに掲示。



- 節水器具の取り付け

節水栓や水が広がる口をつけました。洗い易いです。



4. その他

- 室外・社内の緑化運動として、受付、仕事場所に植物を置き育てています。落ち着きます。



玄関口に植物を設置



受付に観葉植物を設置



階段に観葉植物を設置



室内に観葉植物を設置

- 会社の周辺道路を清掃します。
本社では、落ち葉が多く、風が強いときにマンションのゴミも飛んできます。



- 各営業所でも周辺を清掃します。



日米電子の10年にわたる継続的な取り組みと地球・地域への貢献が評価され、一般社団法人持続性推進機構から表彰されました。



- 本社や営業所で古切手を集め寄付し貢献しています。

日米電子 (株) 御中
ステナイ生活へのご寄付のお礼

この度はステナイ生活にご協力いただき誠にありがとうございます。今回いただきましたご寄付について仕分け作業が完了しましたので、報告書申し上げます。過去の活動へご賛同いただき誠にありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。頂いたお金のうち半分は、過去の活動へご賛同いただき誠にありがとうございます。今回も引き続き、このお返しに努めます。

株式会社日米電子グループ
— 貴社による海外協力への
事務局員 小畑貴明

この度はセンターに通う、家事従事者として働く方の
活動に貢献です

パソコンがなくても子ども3人、大人5人
キッズルームで子ども3人、大人5人

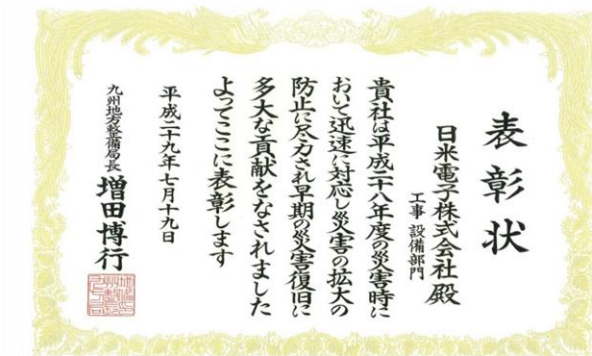
子どもが働いています。3歳-12歳の年齢に達している
キッズルームにも参加して子どもも働いているのです。
キッズルームでは家事従事者として働く子どもたちへの
支援として読み書き教室や体操指導を行うヘルプセン
ターの運営の支援を行っています。

現金	円	現金	円
未使用図書	644円	未使用図書	280円
未使用ブック	円	未使用ブック	円
未使用ブック	円	未使用ブック	円
CD	円	本	円
書籍	円	未使用図書	円
ゲームソフト	円	その他	円
未使用インターネット	円		
合計換算額		908円	

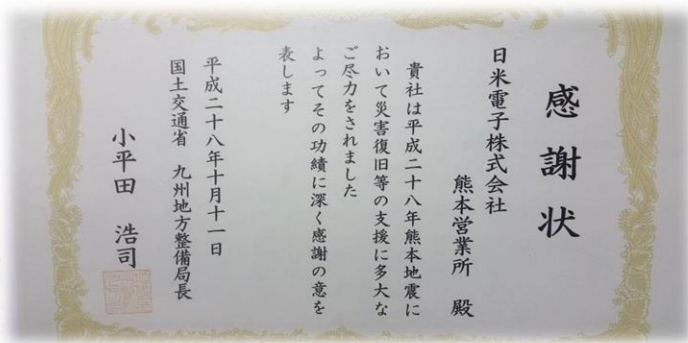
■ご寄付内容 支店番号: 支-0000442 発行日: 2016/11/19



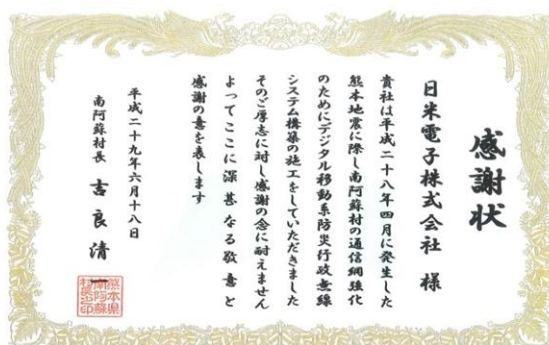
- 九州地方整備局 様から当社が災害時対応の貢献として表彰状を頂きました。



- 九州地方整備局 様から熊本営業所が熊本地震災害復興の感謝状を頂きました。



- 南阿蘇村 様災害復興の感謝状を頂きました。



こんなボランティア活動をやっています

南阿蘇村災害ボランティア活動



2016年の4月14日に起きた熊本地震の災害ボランティアに6月1日、2日の日程で参加しました。本社、熊本営業所、大分営業所から募ったメンバーで南阿蘇村のボランティアセンターに集まりました。その後ボランティアセンターによりボランティア活動へ行く被災現場を割り振られます。被災された個人のお宅へ向かい、そのお宅で必要とされる作業を行うことが今回の活動内容です。

個人宅へ向かうと、大量に屋根瓦が落ち、屋根にブルーシートが張られ、壊れたボイラーなど倒れて使い物にならなくなった物が置かれ、地面がヒビ・割れを起こし、家も被害を受け、家の中で生活ができず、倉庫で生活されていました。熊本へ行く道中も新幹線から屋根にブルーシートを張る家も多数見受けられ、車で移動中も特に被害の大きかった益城町周辺は、家の倒壊、道路上のヒビ・割れ、土砂崩れ、玄関先にお花が供えられたお宅も見受けられて、テレビより被害の大きさ・現実味を感じ、心苦しくなりました。またごみの集積所では多くの被災場所から集められた被災ゴミが大量に積みあがっており、復興までかなりの時間がかかることが見て感じられました。

作業の内容ですが、1日目は大量に落ちた屋根瓦を手押し車に載せ、それをトラックまで運び、積載し、いっぱいになったらそれを指定されたごみの集積所まで運搬します。集積所まで運んだ後、ごみを降ろし、ごみの種類によって分別します。しかし、ごみの集積所への道に行く途中土砂により道が分断されていたこと、慣れない作業で時間があっという間に過ぎました。1日目は屋根瓦の運搬のみで終わり、まだ瓦をすべて撤去しきれませんでした。

2日目は違う現場へ派遣される可能性もありましたが、1日目と同じお宅で作業できることになりました。すべて瓦を撤去できずに後悔があっただけに、2日目で撤去を完了させようと暑さと疲れもありましたが、全員が一生懸命取り組みました。作業も1日目と比べて慣れたこと、また同じお宅での作業だったこともあり、1日目より作業のペースもだいぶ早くなり、そのお宅で必要とされていた作業はすべて完了しました。

今回ボランティアに行ったお宅の方は、家が被害に遭い、それでも懸命に生活されており、またとても明るく、私たちにとても親切にいただきました。自分が被災した時でも塞ぎ込まず、人に常にやさしく接することができる人間でありたいものだと痛感し、普段の自分を見直す良い機会になりました。

作業自体はハードで、気温も暑かったですが、大地震の後の被災状況を自分の目で確認できたこと、ボランティアの経験、今後の防災意識・被災した際の意識など多くの事を得られた活動となりました。

